

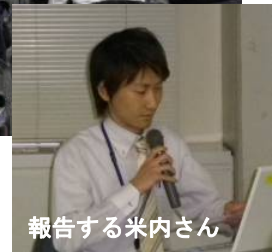
新入事務歓迎会 先輩から震災支援報告

4月15日（金）東京民医連青年事務育成委員会主催の「2011年度新入事務歓迎会」を開催し、その中でこの間震災現地支援に参加した立川相互病院の看護学生担当の米内悠介さんから、報告をしていただきました。

私は厚生会の災害医療支援隊第4陣として3月22日～25日まで支援活動を行いました。

「医療支援」の中で事務ができることは果たしてあるのかと当初は不安もありましたが、やれることはたくさんありました。

一つ目は運転手になることで、救援物資や医療スタッフの運搬ができます。救援物資の選定や運搬の振り分けもしました。二つ目に避難所・被災者の状況を調査、報告することです。どの地域にどれだけの人が出て、何が必要かを情報化する。日々変動する被災者の状況を情報化することで支援内容に活かすことができます。三つめに被災者のケアです。被害状況や健康被害について聞き取ることはできません。傾聴することで被災者の心のケアにつながります。また必要な場合は医師や看護師へ引き継ぎます。その中で様々な話を聞くことができました。



報告する米内さん



被災者と一緒に支援物資をバケツリレーで運ぶ「荷おろし」



支援物資は避難所に降ろしていましたが、自宅で避難している人たちのもとへは物資は届いていませんでした。家はあるけど生活できないような被災者への支援も急務だと感じました。

また支援の内容も自分たちに何ができるかいろいろなアイデアが出てくるようになりました。とくに避難所では様々な多彩な支援活動がおこなわれるようになりました。その中一つに「足湯」があります。お湯の手配や洗面器になるような物を探し回って夜中まで準備しました。被災者は津波で泥水の中逃げてきた人、はだしの人もいました。「気持ちいい。ありがとう。地震があってから、初めて生き残ってよかったって思ったよ」と感謝の言葉を受けた時は「やってよかった！」と支援者の私たちが被災者に励まされました。